

2021年11月9日
千代田化工建設株式会社
総務部 IR・広報・CSR セクション

2022年3月期第2四半期決算説明会発表要旨 (2021年11月5日開催)

2021年11月5日に開催致しました2022年3月期第2四半期決算説明会(電話会議)における弊社の発表内容の要旨を以下にまとめております。

I. 決算概要(P2)

1. ハイライト(P3)

- 完成工事高、完成工事総利益、営業利益、経常利益は通期予想に対して順調に進捗。
- 受注はインドネシア銅精錬プロジェクトを本年7月に受注し通期予想を達成。

2. 損益計算書(P4)

- 完成工事高は1,474億円、通期予想に対する進捗率(以下、進捗率)49%。
- 完成工事総利益は119億円、進捗率は46%。完成工事総利益率は8.1%で、前年同期比1.2ポイント改善。
- 販管費は56億円、前年同期比3億円減少、進捗率は38%。
- 営業利益は63億円、経常利益は60億円、いずれも前年同期比から増加、進捗率は営業利益57%、経常利益67%。
- 純利益は△153億円。第1四半期において、完工済みのイクシスLNGプロジェクトで、長年続いてきた顧客との係争を和解で決着することを前提に、特別損失204億円を計上したことによる。第2四半期単独では19億円の純利益を計上。顧客との和解は10月に成立、和解成立に伴う追加損失はなし。

3. 利益増減分析(P5)

- 完工総利益 119 億円は前年同期比 8 億円の増加。事業分野別では、地球環境分野 33 億円、エネルギー分野 86 億円。完工総利益の増加は地球環境分野の増加が寄与、特にライフサイエンス等新規事業分野が順調に伸びている。
- 販管費は前年同期比 3 億円減少。
- この結果、営業利益は 63 億円、前年同期比 11 億円増加。

4. バランスシート(P6)

- 総資産は本年 3 月末 3,296 億円から 9 月末 3,030 億円で 266 億円減少。既存案件の進捗に伴い、資産項目では主に現金・預金等が減少する一方、カタール LNG など今期受注案件の業務開始に伴い JV 案件における現預金の当社持分である JV 持分資産が増加しており、これらの増減に見合う形で、負債項目では営業負債が減少。
- 自己資本は 141 億円、本年 3 月末比 223 億円減少。第 1 四半期のイクシス LNG プロジェクトに関わる特別損失計上に因る。第 2 四半期単独では純利益 19 億円を計上により、自己資本は本年 6 月末 124 億円から 19 億円改善。

5. 受注高・受注残高(P7)

- エネルギー分野 227 億円、地球環境分野 3,385 億円、合計 3,612 億円、通期予想に対して既に 120%の進捗率。地球環境分野の受注が大きくなっており、主としてインドネシア銅製錬プロジェクトと医薬品関連。
- 受注残高は 1 兆 3,324 億円。主な案件は、エネルギー分野では、カタール LNG、ゴールデンパス LNG、タンゲーLNG。地球環境分野では、インドネシア銅製錬、ワクチン原薬製造設備、蓄電池システム、バイオマス発電。

6. 附表(P8~P10)

- 完成工事高(P8)、受注高(P9)、受注残高(P10)の分野別、地域別の内訳を掲載。説明は割愛。

Ⅱ. 成長戦略トピックス(P11)

1. インドネシア銅製錬プラント着工(P12)

- 本年7月の受注後、横浜で設計・調達業務を進めている。9月から現場工事を開始。10月にはジョコ大統領を迎えて起工式を執り行った。
- インドネシア政府は顧客である P.T. Freeport Indonesia の主要株主。写真は起工式及び Joko 大統領がサイトを視察している様子。
- 銅は、電化社会、すなわち脱炭素社会には不可欠な主役素材。今回の銅精錬設備は単一ラインとしては世界最大級の生産能力を持つ。当社はインドネシアで類似の銅精錬プラントを過去に建設した実績と知見を最大限生かして、2024年の完工に向けて全力で取り組んでいく。

2. 水素事業(P13)

- 当社の固有技術である SPERA 水素の優位性を生かした、商用化に向けた取り組みは着実に進捗しており、主な取り組みを5つ紹介する。
- 01番: 中部圏における海外輸入水素の受入れ配送事業に関する事業性調査を住友商事殿、トヨタ自動車殿などと共同で NEDO から受注し、実施中。
- 02番: ENEOS 殿向けにブルネイから水素供給を開始した。ENEOS 殿はこれを使って、「本格的な水素の大量社会を見据えた製油所での実証事業」を行う計画。
- 03番: ENEOS 殿、豪州クイーンズランド工科大学と協働で水とトルエンを直接電解合成させて CO₂フリー水素を製造、日本へ輸送、燃料電池車に充填、走行させることに成功した。直接電解合成技術により、製造コストを大幅に削減、CO₂フリー水素の社会実装化に努めていく。
- 04番: 水素先進地域であるヨーロッパへの参入を目指し、ヨーロッパにおける水素輸入ハブ港を目指すロッテルダム港湾公社、三菱商事と組んで国際間水素サプライチェーン構築に向けた共同調査を開始した。
- 05番: シンガポールでは、三菱商事と共に、政府系コングロマリットである Sembcorp 社と水素サプライチェーンに係る戦略的提携を合意した。

3. ライフサイエンス(P14)

- 塩野義製薬殿向け、新型コロナウイルス向けワクチン原薬製造プラントの増設工事を遂行中。本年 3 月に原薬製造 1 ラインを完工。引き続き 1 ラインの増設、付帯設備の EPC 業務を遂行中。

4. デジタルトランスフォーメーション(P15)

- 当社は顧客のプラント操業の最適化・自律化に貢献するデジタル AI ソリューションを EFEXIS®ブランドで展開している。
- この EFEXIS®のラインアップの一つ、Foaming Prediction AI System の開発の成果を 9 月に UAE で開催された世界最大の天然ガス・LNG 国際会議である Gastech2021 で ADNOC LNG 社と共同で発表し、注目を集めた。
- 2018 年に ADNOC LNG 社と覚書を締結後、同社の LNG プラントの運転データを用いて開発を進めてきた。LNG プラント、製油所等の酸性ガス除去設備における異常現象であるフォーミングの発生を予測し、設備の安定操業に貢献する。
- 今後、この成果を生かしてデジタルトランスフォーメーション事業を加速していく。

Ⅲ. 主要遂行中案件(P16)

1. 主要遂行中案件(エネルギー分野)(P17)

- 各案件とも概ね順調に進捗している。
- 米国テキサスエチレンは予定通り完工を達成。
- カタール LNG(NFE)は順調に立ち上がっている。

2. 主要遂行中案件(地球環境分野)(P18)

- 先ほどご説明した、インドネシア銅製錬プロジェクト以外を掲載。

- 当社が成長分野に位置付けている、ライフサイエンス、エネルギーマネジメント、再生可能エネルギーの各分野で大型案件を遂行中で、いずれも順調に進捗中。

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。